



学術会議

兵庫県における野生動物管理の体制

兵庫県立大学/兵庫県森林動物研究センター
横山真弓

ワイルドライフ・マネジメントの推進体制整備

兵庫県の課題 2000年から検討開始

- | | |
|--------------|-----------|
| ・科学的データが少ない | 調査研究機能 |
| ・専門家の支援体制がない | 森林動物専門員制度 |
| ・県民の合意形成が困難 | 情報発信・協議会 |

シカ急増による被害問題
がきっかけ



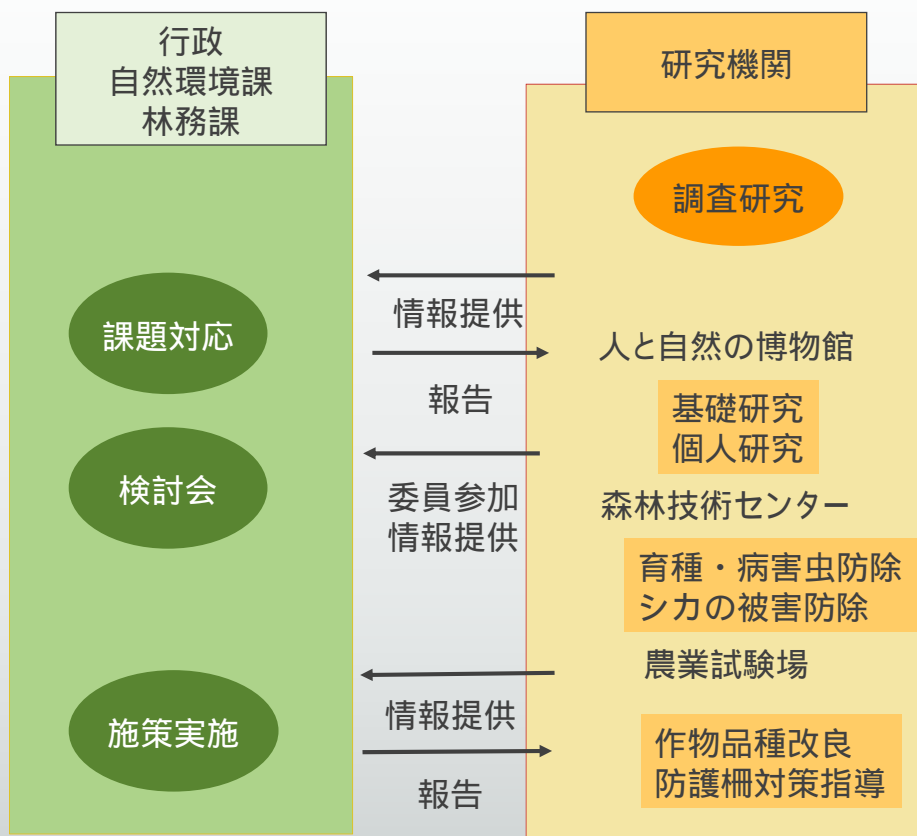
兵庫県森林動物研究センター
(2007年設立)



施設概要：

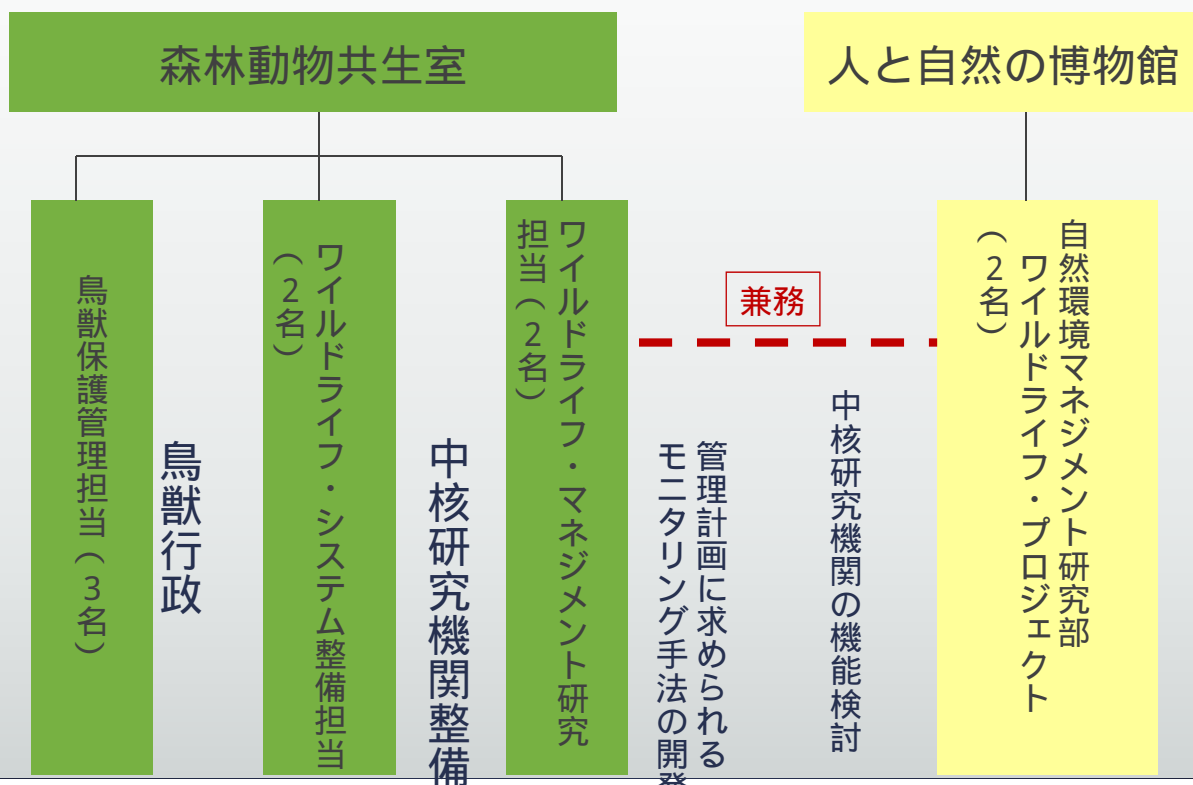
- ・研究棟 1棟
- ・倉庫棟 1棟
- ・実験フィールド
126ha

2001年（H13年）頃までの野生鳥獣関係部局の体制

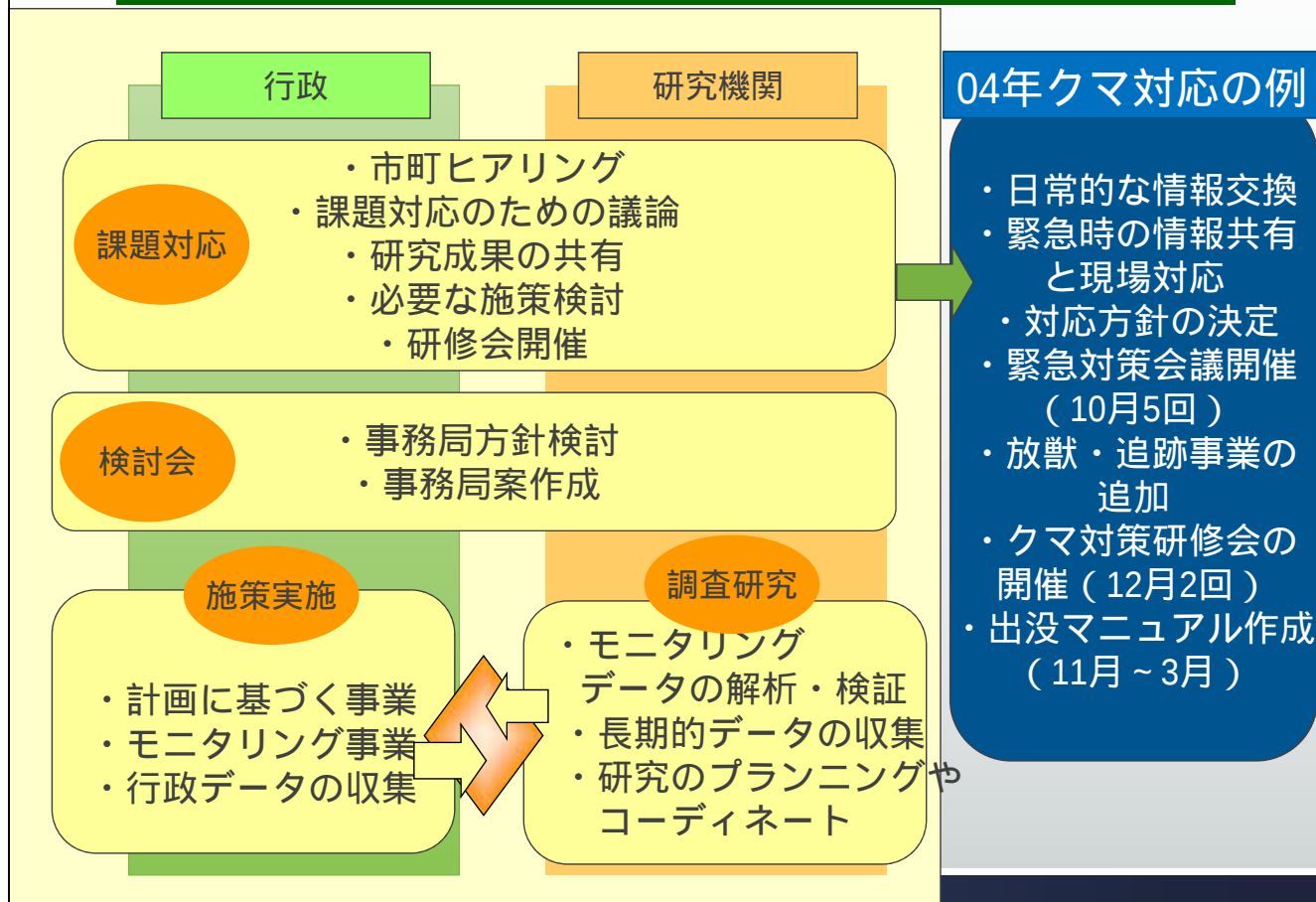


2003年（H15年）行政と研究機関の連携

農林水産部にタスクフォースチームが結成された



創生期の体制：情報の共有化と適切な役割分担

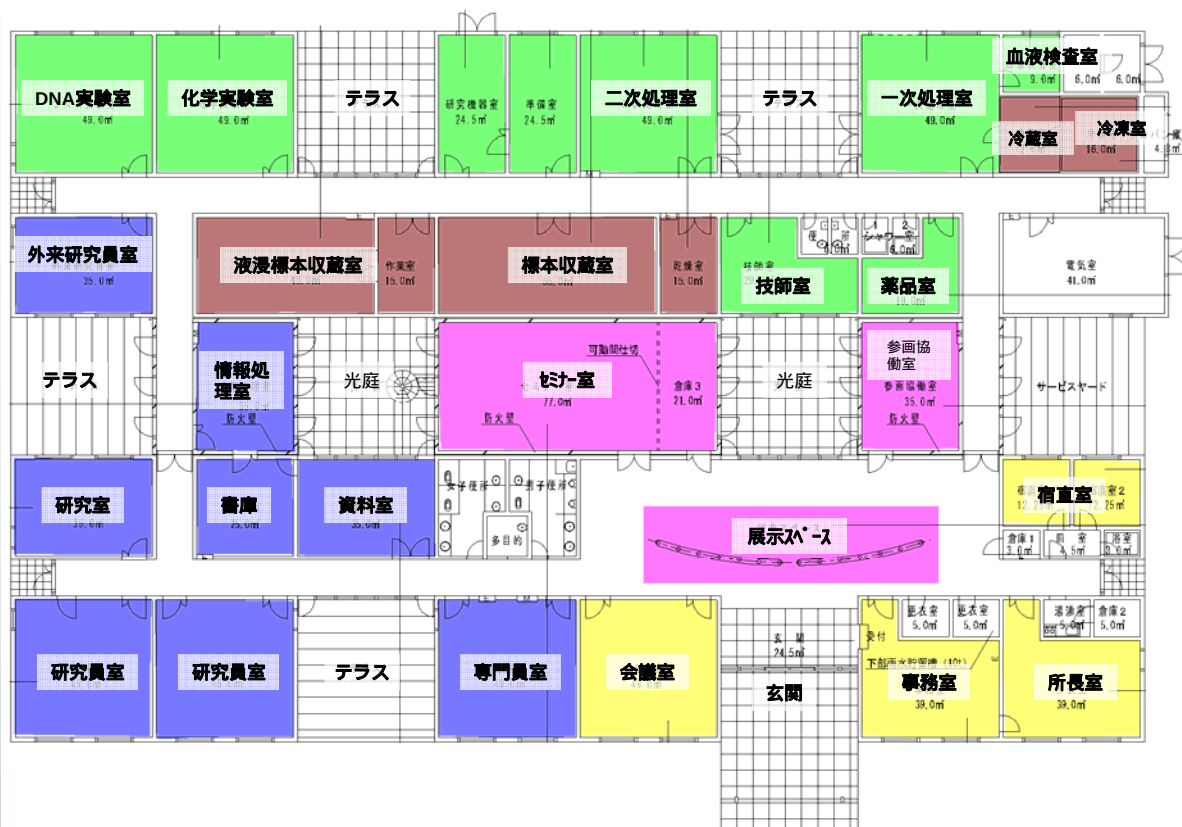


中核研究機関に求められる5つの機能

森林動物研究センターのミッション

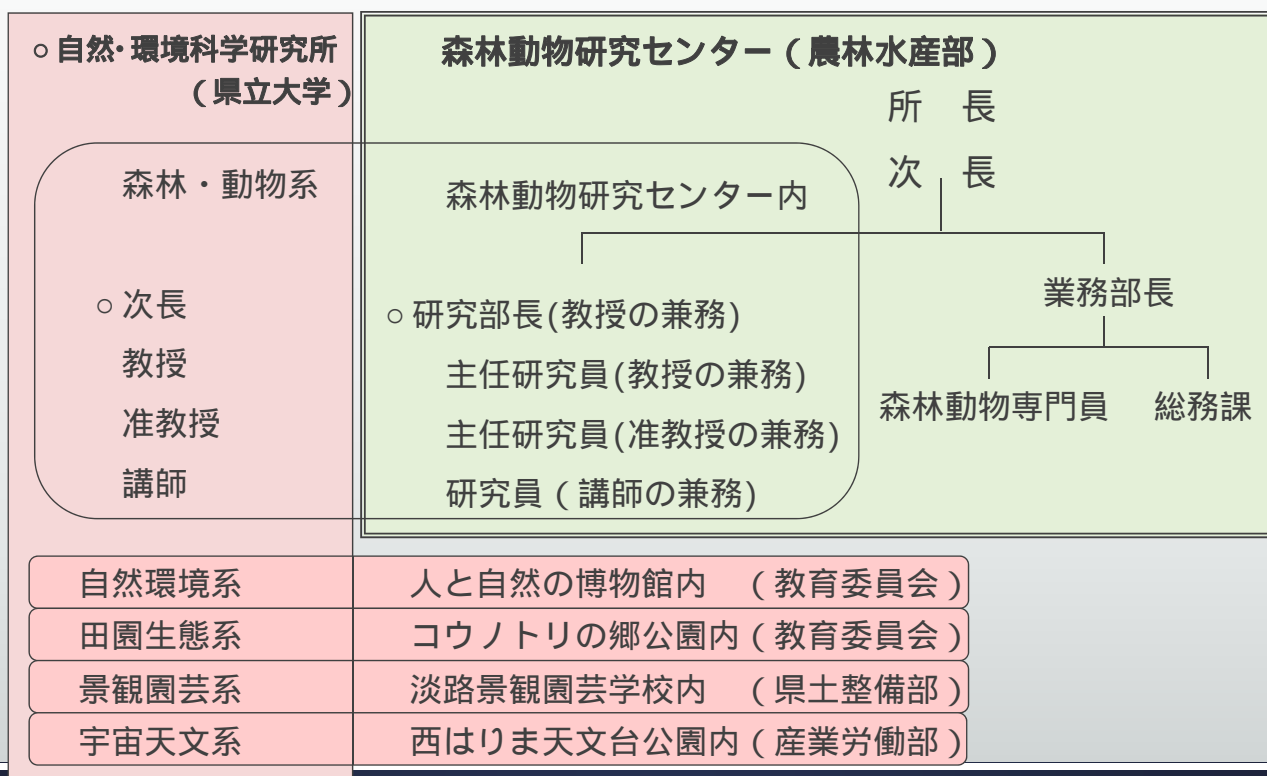


中核研究機関としての森林動物研究センター



研究体制

- 1 農林水産部の地方機関として「森林動物研究センターを設置」
- 2 県立大学・自然環境科学研究所の増部門として「森林・動物系」を同研究センター内に設置



森林動物研究センターにおける 研究部と森林動物専門員の役割分担

総務課

研 究 部

- ・生息状況等調査
- ・対策・技術等の研究
- ・全国・海外等からの知見・情報収集

プロジェクト事業

- ・獣害に強い集落づくり
- ・シカ被害対策
- ・イノシシ被害対策
- ・サル被害対策
- ・クマ対策
- ・外来生物対策
- ・生息地(森林)環境整備
- ・人材育成他

森林動物専門員

- ・現場での関係者調整・技術支援
- ・野生動物出没対応
- ・人材育成

野生動物管理の推進体制 2007年（H19年～）

森林動物研究センター

科学的データ・研究成果

研究員

森林動物
専門員

連携

技術・情報

県民局(農林振興事務所等)

- ・農業関係課
- ・森林林業課
(野生鳥獣担当)
- ・(農業)普及指導員
- ・林業普及指導員

指導

指導・支援

指導

市町

被害対策

地域住民

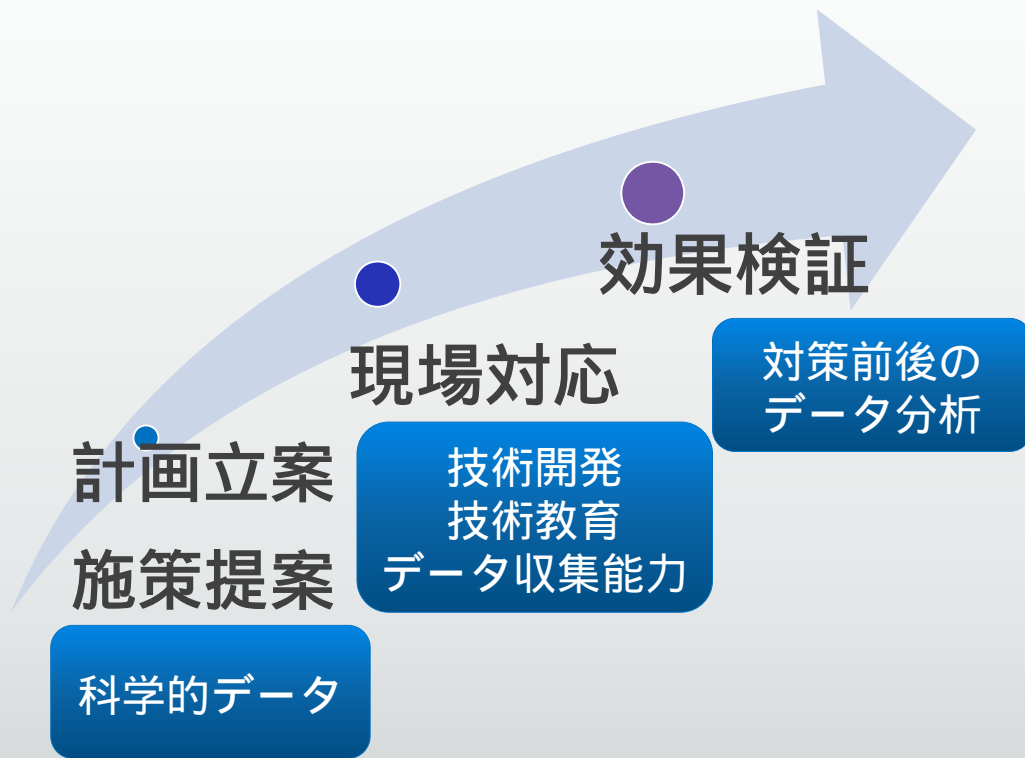
関係団体

・獣害に強い集落づくり
・共生の森づくり

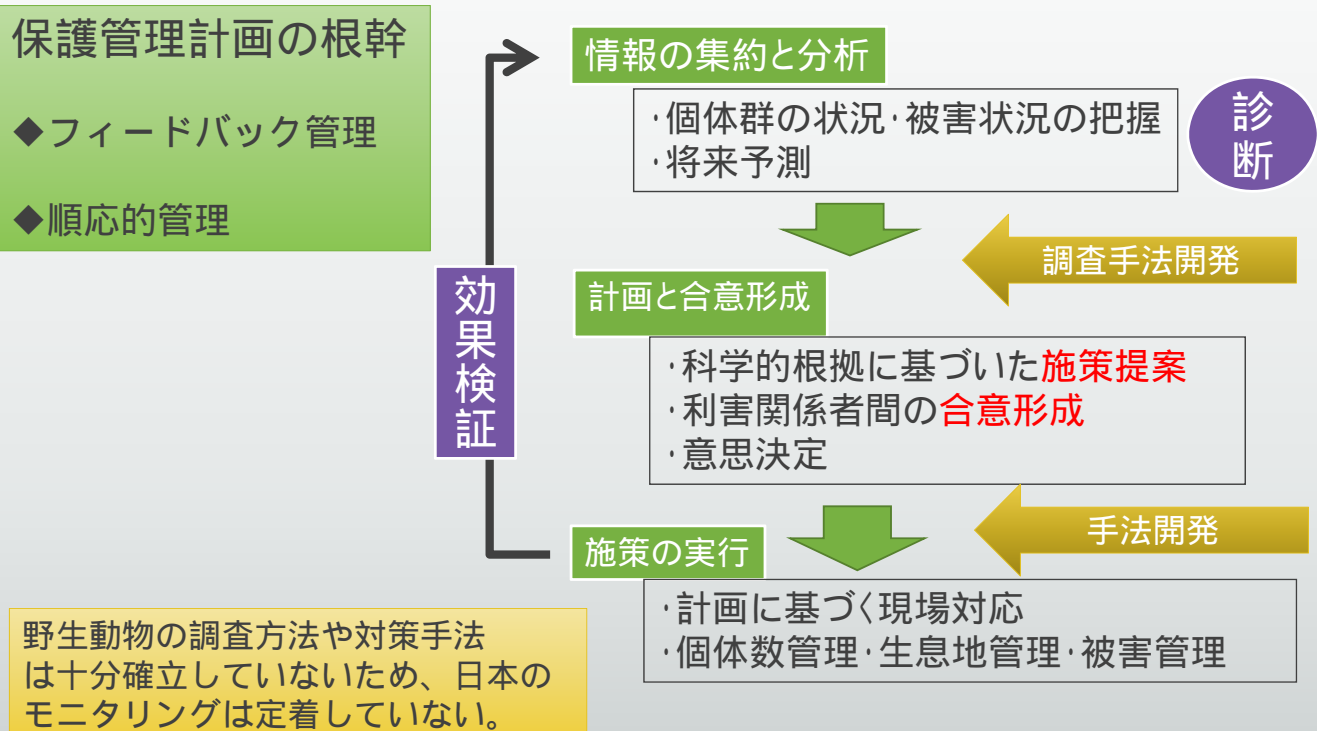
・農林業被害の軽減
・安全・安心の確保

人と野生動物の共生

野生動物管理における施策展開のポイント

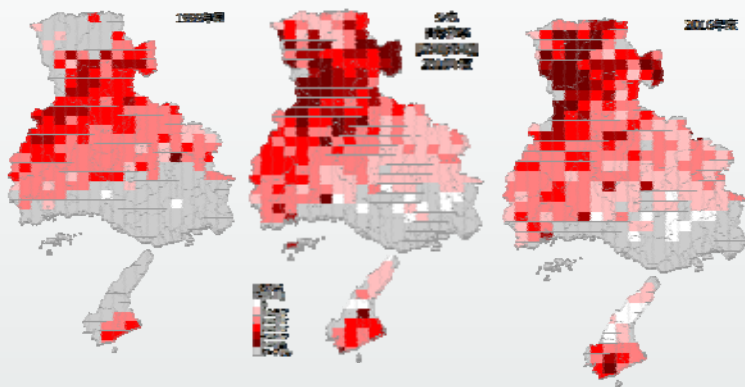


施策展開のポイント 計画立案・施策提案 機能するモニタリングシステムの構築



多様な視点からのデータ収集

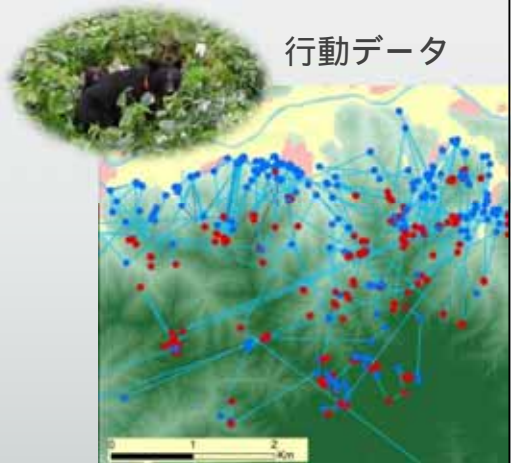
目撃効率（密度指標）



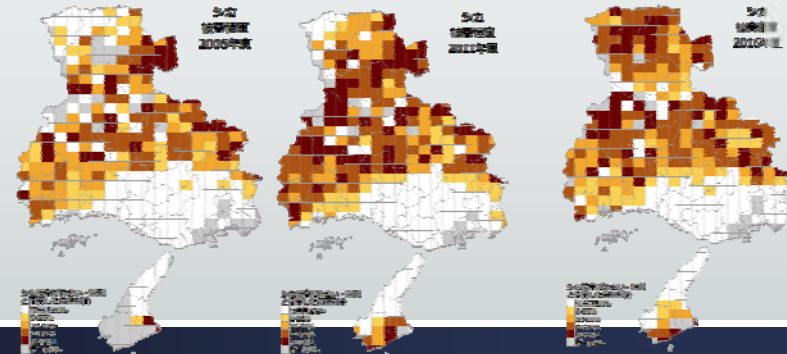
捕獲個体データ



行動データ



農業被害



モニタリングの体系化

鳥獣行政を通じた収集体制



調査研究を通じた収集体制



分 析

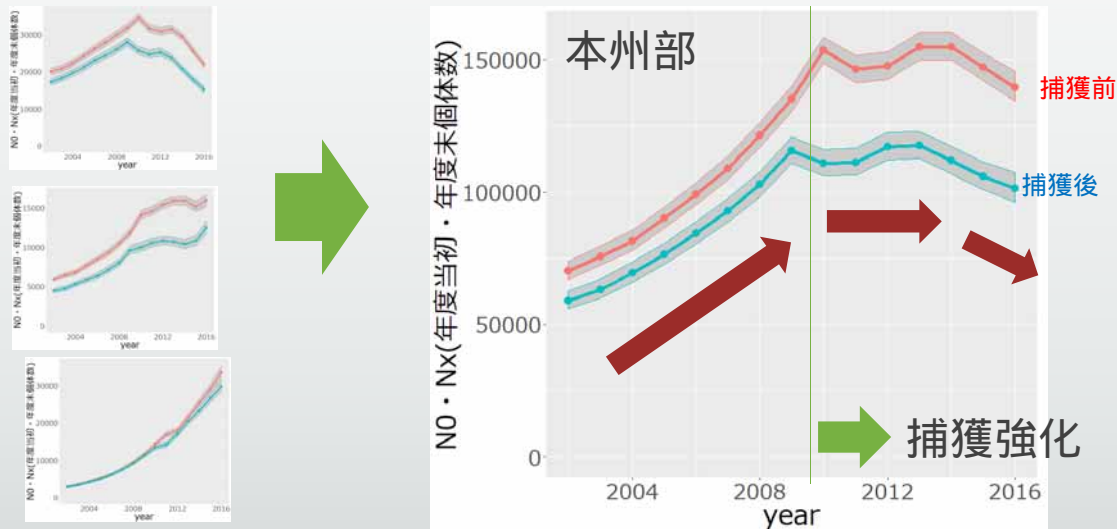
個体数・動向

→ アウトプットへ

施策実施の効果検証 シカの個体数推定



- 全体の傾向としては増加の抑制と緩やかな減少傾向



全国に先駆けて管理の成果が現れつつある状況

15

施策展開のポイント 現場対応 森林動物専門員の育成



庁内公募

林業職員	2名
農業改良普及員	1名
農業（畜産）職員	1名
畜産獣医師	1名

- 初期メンバーは、2年間の研修後、専門員として活動
- 2年目以降は順次転出あり
- 新任者は専門員が中心となり研修を実施



シカの防護柵指導



クマの出没状況のチェック

専門員活動の事例ー獣害に強い集落づくりー



集 落 診 断



サル追い払いの指導

主な活動形態

- ・ 被害対策チームの結成
- ・ 集落診断の実施
- ・ 市町協議会の設立指導



市町職員及び
集落リーダーの育成

専門員活動の事例ークマの放獣対応ー

被害情報→誘因物の特定や防護指導→
有害捕獲許可→現場対応→再被害の有無の監視



森林動物研究センター人材育成プログラム

県・市町職員等 研修

- ・ 新任者研修
- ・ 獣種別研修（シカ・クマ・イノシシ・サル・外来種）
- ・ 防護柵
- ・ 捕獲技術
- ・ 追い払い技術
- ・ 集落環境整備
- ・ 森林動物指導員研修

地域リーダー育成 研修

- ・ 県民局と連携し、地域の実情に応じた内容と開催時期
- ・ 年間50～100回

特別課題研修

- ・ 県の重要施策や緊急課題、関連機関からの要請に応じて必要に応じて実施（シカ肉有効活用など）

狩猟者セミナー

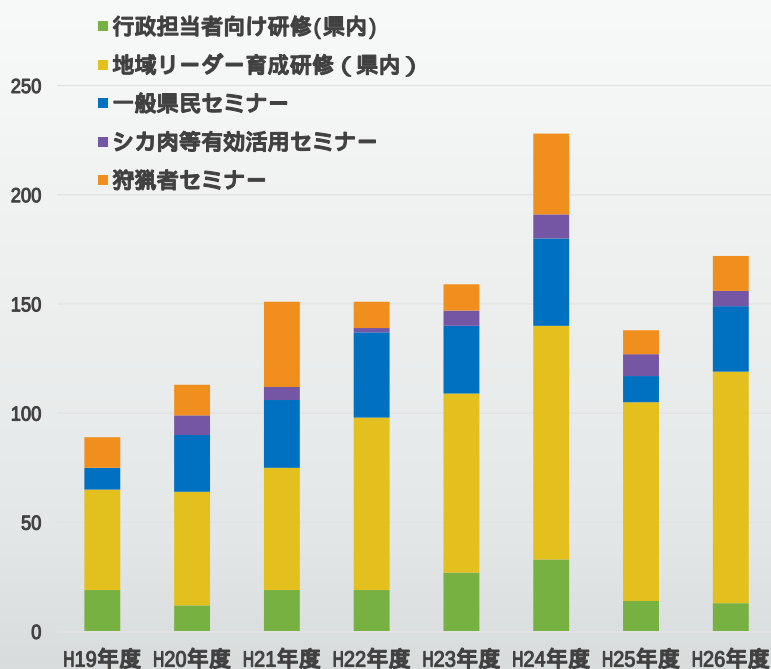
- ・ 狩猟免許更新講習（3年に1回）時にワイルドライフマネジメントについて1時間の講習を実施

一般県民向けセミナー（含 外部依頼）

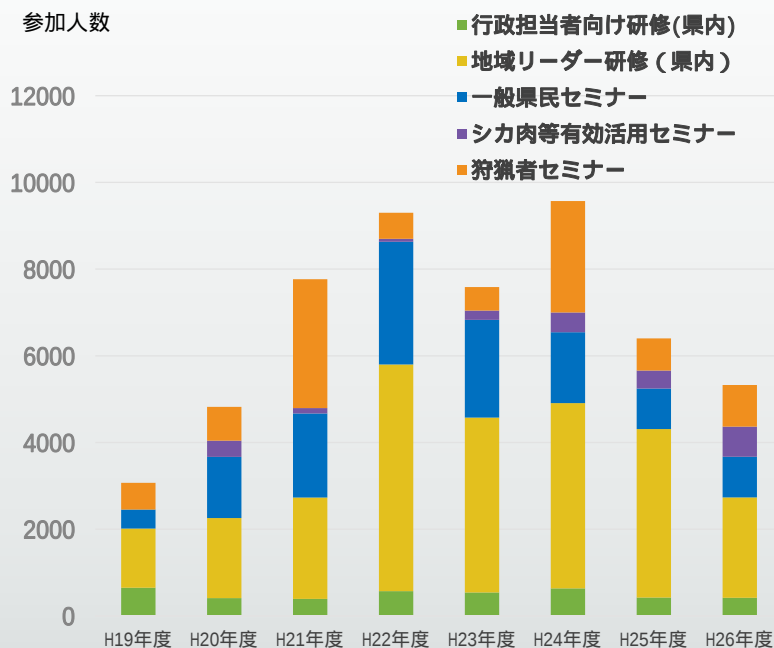
森林動物専門員 研修

- ・ 新任専門員研修（12項目）（法令・獣種別・被害防除・集落づくり・捕獲技術・調査手法）
- ・ クマ捕獲対応研修
- ・ サル監視員研修
- ・ 射撃実習

各研修会開催回数



各種研修会への参加人数



すでにのべ5万人以上が受講



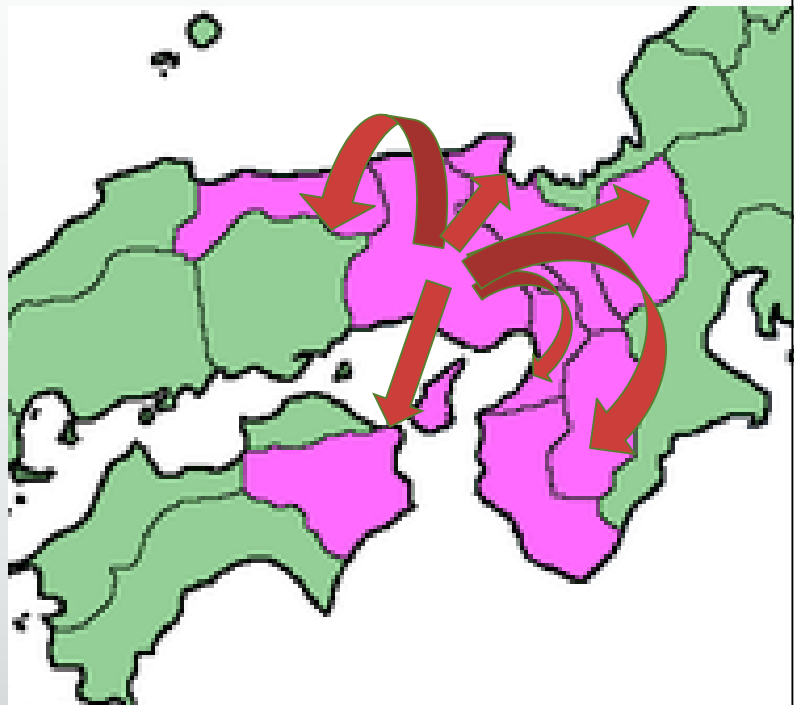
県内各地・多様な職種
に情報が広がる



広域連携の事例
人材育成の
関西広域連合への展開

平成28年度から

関西広域連合の構成自治体及び岡山県の職員の研修の受け入れを開始



広域連携の事例 2

近畿北部・東中国ツキノワグマ広域保護管理協議会（仮称）
による個体群管理への取り組み



2022年の次期計画に向けて協議中

1) 関係府県

京都府、大阪府、岡山県、鳥取県、兵庫県

2) 目的

- ・地域個体群の保護管理方針の明確化
- ・モニタリング精度の向上と効率化
- ・人材の育成確保
- ・出没対応や捕獲に対する社会的理解の醸成

3) 科学委員会の設置による個体群ベースの個体数推定、対策の効果検証

